

4年制大学で介護福祉士養成課程を学ぶ意義

—介護福祉士養成課程卒業生への意識調査から—

吉田清子・阿部明子・柏葉英美・高田梨恵・熊谷はるえ¹⁾ 滝沢市包括支援センター・米本清・鈴木聖子²⁾ 大学名誉教授

〈要旨〉本研究では、4年制大学を卒業した卒業生による学士教育の評価と、介護福祉士養成教育で学んだ知識を生かして卒後に職場や社会の中で成長したと感じる自己意識を問い、その内容を実証的に明らかにすることを目的とした。その結果、「専攻した学問分野における知識を得た」との評価割合が最も高く卒後の成長では、「協働力」、「探求力」、「倫理力」が高い割合を示した。

1. 研究の概要

岩手県立大学は、1998年に開学した大学であり、人間力、応用力、実践力、地域力、国際力を身につけることを目標に設置され、本年度で18年を迎える地域に根ざした大学である。

学部は、人間の尊厳に対する深い理解にたち、現実的な課題解決にむけた高度な専門的学識・技術の修得と、それを統合する学際的教養の涵養を目指し、教育が行なわれている。

介護福祉士課程が本年度末をもって廃止に至ることを受け、4年制大学介護福祉士養成教育の意義を卒業生とともに振り返る契機とした。

2. 研究の内容

(1) 研究目的・意義

井上(2008)は、4年制大学の社会的意義として、介護福祉士養成教育のみに終わらず「教養教育」が対人援助の基礎を作り、主体的行動・創造性などを生み、社会的評価を高め、さらにリーダー力や研究力を生むと述べている。介護福祉士課程で学んだ後の成長について考察するものである。

(2) 研究方法・研究倫理

1) 調査期間

2016年8月1日 - 8月31日

2) 調査対象・研究倫理

本学部介護福祉士課程の卒業生のうち調査に同意が得られた165人を対象とし倫理委員会の承認を得た上で調査を実施した。回答者は105名で回収率は、63.6%であった。

3) 調査内容

自記式郵送調査とメール配信による調査である。

質問項目は、①「学士力」は大学で学んだ教養力について10項目を選択し、その項目ごとに、「かなり当てはまる」から「全く当てはまらない」の4件法で回答を求めた。②卒業後に仕事を通じて獲得したと考える能力で、「マネジメント能力」「人事能力」「リーダーシップ能力」「相談能力」「教育力」「経営力」「協働力」「探求力」「指導力」「時間管理能力」「仕事調整能力」「課題発見能力」「倫理力」の13項目と属性、自由記述から回答をもとめた。

3. これまで得られた研究成果

(1) 学士力について

学士力に関する評価では、「専攻する学問分野における知識を修得した」と回答した卒業生の割合がもっとも高く、かなりとやや当てはまるを合計して93.4%が回答していた。80%をこえる項目は10項目中5項目が該当していた。

(2) 卒業後獲得した能力について

質問項目13項目中、もっとも優れていると回答したのは、「協働力」で81%が「非常に優れている」「やや優れている」と回答していた。「探求力」「倫理力」が60-70%以上で、50%を超えるものが、「課題発見力」「仕事調整力」「相談能力」と続いていた。

4. 今後の具体的な展開

総じて、学士力に比較して、卒業後に獲得した能力への自己評価が低い傾向を示した。その傾向を受けて卒後教育の充足を目指していきたい。

引用文献

井上千津子「4年制大学における介護福祉教育の社会的意義」京都女子大学生生活福祉学科紀要 4.1-6.2008-2